

エレミヤ書、哀歌#7:永遠の神であるエホバの慈愛、

あわれみ、信実において彼を認識する10/19-25

OL Summary: **I.** エレミヤはしばしば神を万軍のエホバと呼びました。A「エホバは真の神である。彼こそ、生ける神、永遠の王である」(エレミヤ10:10a)。「エホバ」は、「私は、『私はある』である」を意味しエホバが永遠の方、過去におられ、今おられ、未来の永遠におられる方であることを示します。「私はある」は、ご自身以外に何にも依存しない方を示します/エホバは「ある」唯一の方であり、私たちは「彼はある」ことを信じなければなりません/エホバは「私はある」方として、すべてを含む方、すべての積極的なものの実際、彼の民が必要とするすべてのものの実際です/エホバ以外に、他のすべては無です。彼は唯一「ある」方であり、存在の実際を持つ唯一の方です。B「義しく裁き、内なる各部分と心を試される万軍のエホバよ」(エレミヤ11:20)。「万軍のエホバ」という称号は、エホバ・神が大能者、天の全軍の主、全軍を統帥する方であることを示します/肉体と成り、十字架につけられ、復活したキリストとして、栄光の王は来て地を所有し、彼の王国にしようとしています/万軍のエホバは地の果てまでも戦いをやめさせます。彼は諸国民の間で高く上げられ、地上で高く上げられます/万軍のエホバは権威を持ってすべての諸国民を支配します。そして彼の御手は、王を廃し王を立てる権威を保持しています/祭司職が貧弱になった時、神は彼の御名を万軍のエホバとして啓示しました。それが示しているのは、神の行政がそのように貧弱な状態であったとき、神が出て来てその局面全体を支配し、彼の王国の統治をもたらすということです。II. **「エホバよ、あなたは永遠にいまし、あなたの御座は代々に至ります」**(哀5:19): A. 19節でエレミヤは、自分の立場と角度を変えて自分自身から神へと向きを変え、神の永遠の存在と不変の行政に言及しています。B. エルサレムは覆され、宮は焼かれ、神の民は連れ去られましたが、エホバ、宇宙の主はなおも彼の行政を執行しています。C. 「エホバよ、あなたは永遠にいまし」という句は、神が永遠であって、彼には何の変化もないことを示しています: 人の領域で、変化はあらゆる面で起こりますが、神の永遠の存在に変化はありません。神は永遠に同じままです/アブラハムは「エホバ、永遠の神の御名を呼び求めた」/ヘブル語で、「永遠の神」は「エル・オラム (El Olam)」です。「エル」は「大能者」を意味し、「オラム」は「永遠」あるいは「永遠」を意味し、「隠す」あるいは「遮蔽する」を意味するヘブル語の語根から来ています/「エル・オラム」という神聖な称号は、永遠の命を暗示します/エホバ、永遠の大能者を呼び求めることによって、アブラハムは神を、永遠に生きる、秘密の、奥義的な方として経験しました。神は永遠の命です。D. 「あなたの御座は代々に至ります」という句は、神の永遠の変わらない行政を指しています: 神の御座には初めも終わりもありません。彼の御座は代々に至るまで存在します/神の永遠の存在と彼の御座についてのエレミヤの言葉は、エレミヤが哀歌を書いたとき、神のエコノミーに触れたという有力なしるしです/彼は自分の人の感覚から出て来て、神のパーソンと神の御座に触れ、神の神性の中へと入りました。E. 新エルサレムで、神は彼のパーソンにおいて、また彼の行政において完全に明らかにされます。神のパーソンは永遠の王であり、

神の行政は彼の永遠の、揺り動かされない王国です。神のパーソンと行政はいずれも、神が彼の民を対処することでの揺り動かされない土台です。III. **「私たちが滅ぼされないのは、エホバの慈愛である。まことに、彼のあわれみは尽きることがないからだ。それらは朝ごとに新しい。『あなたの信実は大偉です』**(哀3:22-23): A. エホバはエレミヤに現れて言いました、「私はあなたを、慈愛をもって引き寄せてきた」(エレミヤ31:3): 詩篇103篇は神の歴史における神の慈愛と神のあわれみについて語っており、その中で神は彼の民の罪を赦し、彼らをいやし、贖い、顧みます/詩篇の作者はエホバに言いました、「私は、あなたの満ちあふれる慈愛の中で、あなたの家に入ります」(詩5:7)/エホバの宮のただ中でエホバの慈愛を深く思うことは、私たちが召会の中で彼の慈愛に触れることを示しています。B. イスラエルの民は失敗しましたが、神のあわれみはイスラエルの残された者[レムナント]を守り、神のエコノミーを完成するようにしました: あわれみは、同情よりもさらに深く、細やかで、豊かです/あわれみは、神の愛する本質から生み出された内側の愛情を指しています/神のあわれみ深い慈しみのゆえに、キリストは地に来ました/23節前半は、エレミヤが、あわれみ深い方としての主と朝ごとに接触したことを示しています。C. エレミヤはエホバに、「あなたの信実は大偉です」と言いました: 神のあわれみが尽きることがないのは、彼が信実な方であるからです/神はご自身の言葉に対して信実です。神はご自身を否むことができません。神は彼の性質と彼の存在を否むことができません/神は彼の信実の中で、私たちが御子の交わりへと召しました。神は彼の信実の中で、このあずかることと享受の中に私たちが保ちます/私たちが召した信実な神はまた、私たちが徹底的に聖別し、私たちの全存在を完全に守ります。IV. **「『エホバは私の分け前です』と私の魂は言う。それゆえ、私は彼を待ち望む」**(哀3:24): A. エホバが私たちの分け前であり、私たちが彼を待ち望むことについてのエレミヤの言葉は、新約の味わいを帯びています: 一方で、エレミヤは、神が慈愛の神であること、彼があわれみ深いこと、彼の言葉が信実であることを認識していました/もう一方で、エレミヤは、私たちがなおも毎朝、主と接触し、完全に彼に望みを置き、彼を待ち望み、彼の御名を呼び求める必要があることを認識していました/詩篇の作者は、神の聖なる所へと入り、自分の状況に対して神聖な見方と理解を持ったとき、神は永遠に自分の分け前であると言うことができました。B. 「エホバは彼を待ち望む者と、彼を求める魂に対してすばらしく善い」(哀3:25): 神は真で、生きており、あわれみ深く、信実ですが、彼の民を試みるために、しばしば彼の言葉を成就することを遅らせます/永遠の神を待ち望むことが意味するのは、私たちが自分自身を終わらせるということです。私たちは自分自身を生活、行ない、活動と共に停止し、神をキリストの中で私たちの命、パーソン、置き換えとして受け入れます/私たちは主を待ち望む学課を学ぶ必要があります/今日は究極的完成の時ではありません。ですから、私たちは主を待ち望む必要があります/「あなたがたが心を尽くして私を捜し求めるなら、私を尋ね見いだす」(エレミヤ29:13)/「私を呼べ。そうすれば、私はあなたに答え、あなたが知らない大いなる隠された事をあなたに告げよう」(33:3)。

CP1:「私はある」という名称は、神が自ら存在し、彼ご自身以外の何にも依り頼まない方であることを意味する

出3:14 神はモーセに言われた、「私は、『私はある』である」。また彼は言われた、「イスラエルの子たちにこう言いなさい、『「私はある」が、私をあなたがたに遣わされた』」。

OL1:「エホバは真の神である。彼こそ、生ける神、永遠の王である」(エレミヤ10:10a)。

OL2:「義しく裁き、内なる各部分と心を試される万軍のエホバよ」(エレミヤ 11:20)。

出エジプト 3:14 で…「私はある」という言葉は完結した文ではなく、…名としての、しかも唯一の名としての機能であり…実は「ある」という動詞です。神だけに、この動詞を彼の存在に適用する資格があります。なぜなら、彼だけが自ら存在するからです。あなたと私は、…自ら存在しないことを認識しなければなりません。

「私はある」として、神は私たちが必要とするすべてです。「私はある」という言葉に、私たちが必要とするものを何でも加えることができます。あなたは疲れているのでしょうか？「私はある」はあなたの安息です。あなたは飢えているのでしょうか？彼はあなたの食物です。あなたは死にかかっているのでしょうか？彼は命です。新約で、主は多くのものを用いてご自身を記述しておられます。「私はまことのぶどうの木であり」(ヨハネ 15:1)、「私が命のパンである」(ヨハネ 6:35)、「私は…光である」(ヨハネ 8:12)。「私はある」として、神はあらゆるもの、すなわち天、地、空気、水、木、鳥、家畜です。これは汎神論、神を物質の宇宙と同一視する宗教的信仰ではありません。私はあらゆるものが神であると言っているのではなく、神はすべての積極的なものの実際であると宣言しているのです。これは、神はあなた、あなたの存在そのものの実際でさえなければならぬことを暗示します。私たちは彼に対して言うことができます、「主よ、あなたは私です」。もし主が私たちでないなら、私たちは無であり、私たちには何の実際もありません。

私たちは長く耐え忍んで彼の来臨を待たなければならぬので、失望して頭を下げる傾向があります。こういうわけで詩篇の作者は、「あなたがたの頭を上げよ」(詩 24:9)と言うのです。もし愛する人が来るのを期待しているのに来ないなら、私たちは頭を下げるでしょう。しかし、もし彼から電話があつて間もなく来ると言うなら、私たちは頭を上げます。すなわち、私たちは励まされて彼の来臨を期待します。

24:9 は言います、「城門よ、あなたがたの頭を上げよ。長く耐え忍ぶ戸よ、上げよ。栄光の王が入って来られる」。7 節は「上げられよ」と言いますが、9 節は「上げよ」と言います。上げられるとは、私たちがなおも弱く、だれかが私たちを動かす必要があることを意味します。しかし、上げるとは、私たちがさらに強くなったことを意味します。私たちは行動して、自分自身を上げることができます。私たちが迎える栄光の王は、万軍のエホバです。「万軍」はもろもろの軍隊を意味します。彼はもろもろの軍隊のエホバです。エホバは、肉体と成り、十字架につけられ、復活した三一の神です。彼は復活の中で戻って来て、全地を所有し、彼の王国にしようとする方です。

適用:ビジネスパーソン・大学院生編

神はモーセが神の名を聞かれた時、「私はある」であ

ると答えました。「私はある」という神聖な名称は、神が自ら存在し、永遠に存在する方、彼ご自身以外の何にも依り頼まない方であることを意味します。これはまた、神以外の他のすべては無であることを示します。神はあなたの①励まし、②同情、③喜び、④平安、⑤安息、⑥親切、⑦善良、⑧信実、⑨忍耐、⑩自制、⑪知恵、⑫純粋、⑬誠実、⑭義、⑮勇氣、⑯大胆さ、⑰建造、⑱信仰、⑲希望、⑳愛などの人性の美德の実際であり、①オープンマインド、②鳥瞰的観点(Bird's eye-view)、③重点(Crucial points)、④究極のゴール、⑤積極的な思考、⑥戦略的思考、⑦コラボレーション、⑧緊急性の感覚(Sense of urgency)、⑨急激な変化に対応する力、⑩相乗効果(Synergistic effect)、⑪レバレッジ(Leverage、テコの力を利用すること)、⑫突破力、⑬洞察力、⑭柔軟性、⑮精神的強さ、⑯コミュニケーション能力、⑰他者を巻き込む力、⑱全体に一貫性があること(Alignment)、⑲執行力、⑳やり抜く力(Grit)などの能力の実際です。あなたや私はそれらの実際ではありませんが、神ご自身が、あなたが必要とするすべての能力と美德の実際で「ある」のです。上記のこれらの能力は、心理学などの科学が、ビジネスパーソンが成功するために要求される能力として提示したものです。

イエス(Jesus)の御名は、エホバ・救い主(Jehovah Savior)の短縮形です。イエス・キリストは神が人となり、罪人を救うために十字架で罪人の身代わりに死に、三日後によみがえり命を与える霊と成り、昇天してあらゆる名をはるかに超えて高くされ、万物の上にかしらとされました。このかしらであるキリストは召会に与えられました。この言葉は信実であり、全く受け入れるに値しません。信者であるあなたはパウロを模範として、このイエス・キリストを福音として伝えてください。あなたが「私はある」方をあなたに必要なすべての能力とすべての美德の実際として経験する秘訣は、主イエスを信じること、主イエスを福音として宣べ伝えることです。

Ⅰ テモテ1:15 「キリスト・イエスは罪人を救うためにこの世に来られた」という言は信実であつて、全く受け入れるに値します。私はその罪人のかしらです。16 しかし、私があわれみを受けたのは、罪人のかしらである私において、イエス・キリストが彼の辛抱強さの限りを展覧して、これから彼を信じて永遠の命へと至る人たちへの模範とするためです。FN「この世に来られた」:キリストは肉体となることによってこの世に来て、私たちの救い主となられました。キリストは、肉体となって、人となられた神でした。この肉体となることは、ご自身の人の体における死と復活を通して、私たちを救うためでした。このことは、地方召会の中で、喜ばしいおとずれとして、絶えず告げ知らされるべきです。FN「永遠の命」:神の非受造の命です。これは、神がキリストを信じる者たちに与えられた究極の賜物、最高の祝福です。祈り:「おお主イエスよ、主の御名は「私はある」です。私が必要とするすべての美德と能力の実際としてあなたを経験するために、主の御名を呼び求めます。イエス、エホバ・救い主は私のビジネスライフに必要な全ての能力の実際を供給してください。私は主を待ち望み、顔を上げて、ビジネスライフと召会生活においてキリストを経験し、キリストを表現し、キリストを宣べ伝える生活をします。主を待ち望む生活を増強してください。アーメン!」

**CP2:神の永遠の存在と不変の行政を見て、強められ、
忠実に神の定められた福音と牧養の道を歩む**

適用:奉仕者編

OL1:「エホバよ、あなたは永遠にいまし、あなたの御座は代々に至ります」(哀5:19)。19節でエレミヤは、自分の立場と角度を変えて自分自身から神へと向きを変え、神の永遠の存在と不変の行政に言及しています。エルサレムは覆がえされ、宮は焼かれ、神の民は連れ去られましたが、エホバ、宇宙の主はなおも彼の行政を執行しています。「エホバよ、あなたは永遠にいまし」という句は、神が永遠であって、彼には何の変化もないことを示しています。神は変わることができず、いかなる環境や状況によっても何の変化もありません。「山々が生み出される前、あなたが地と世界を生み出される前に、まことに、永遠から永遠まで、あなたは神です」(詩90:2)。人の領域で、変化はあらゆる面で起こりますが、神の永遠の存在に変化はありません。神は永遠に同じままです。

「あなたの御座は代々に至ります」という句は、神の永遠の変わらない行政を指しています。神の永遠の存在と彼の御座についてのエレミヤの言葉は、エレミヤが哀歌を書いたとき、神のエコノミーに触れたという有力な示しです。彼は自分の人の感覚から出て来て、神のパーソンと神の御座に触れ、神の神性の中へと入りました。新エルサレムで、神は彼のパーソンにおいて、また彼の行政において完全に明らかにされます。神のパーソンは永遠の王であり、神の行政は彼の永遠の、揺り動かされない王国です。神のパーソンと行政はいずれも、神が彼の民を対処することでの揺り動かされない土台です。

OL2:「私たちが滅ぼされないのは、エホバの慈愛である。まことに、彼のあわれみは尽きることがないからだ。それらは朝ごとに新しい。『あなたの信実は大です』」(哀3:22-23)。エホバはエレミヤに現れて言いました、「私はあなたを、慈愛をもって引き寄せてきた」(エレミヤ31:3)。エホバの慈愛は尊く、永存し、天よりも高く、神の建造の隅の石としてのキリストに導きます。詩篇の作者はエホバに言いました、「私は、あなたの満ちあふれる慈愛の中で、あなたの家に入ります」(詩5:7)。シオンの山の宮に入る特権を持っている者はみな、神の慈愛の下にいななければなりません。実は、宮そのものに入ることは、神の満ちあふれる慈愛を享受することでした。エホバの宮のただ中でエホバの慈愛を深く思うことは、私たちが召会の中で彼の慈愛に触れることを示しています。イスラエルの民は失敗しましたが、神のあわれみはイスラエルの残された者[レムナント]を守り、神のエコノミーを完成するようにしました。あわれみは、同情よりもさらに深く、細やかで、豊かです。

エホバのあわれみは、「朝ごとに新しい」のです。23節前半は、エレミヤが、あわれみ深い方としての主と朝ごとに接触したことを示しています。彼は主との接触を通して、神の慈愛、あわれみ、信実に関する言葉を受けました。エレミヤはエホバに、「あなたの信実は大です」と言いました。神はご自身の言葉に対して信実です。神はご自身を否むことができません。神は彼の性質と彼の存在を否むことができません。神は彼の信実の中で、私たちが御子の交わりへと召しました。神は彼の信実の中で、このあずかることと享受の中に私たちを保ちます。

エレミヤは、自分の立場と角度を変えて自分自身から神へと向きを変え、神の永遠の存在と不変の行政を思いました。エレミヤは私たちの模範です。あなたの周りの環境は変わりますが、神の存在と神の行政は永遠で不変です。この事を考える時、あなたの召会生活と奉仕は増強されます。

例えば、日本で福音を伝えることは容易でないので、あなたは失望し、神の定められた道の福音と牧養の道は歩むことは難しいので、容易な道に迂回しようとして、**エレミヤ 18:15** **しかし、私の民は私を忘れた。彼らは空しいものに香をたき、自分たちの道、太古の径でつまずき、迂回路に、まだ築かれていない道に歩み、FN「太古の径」:**太古の径は、彼らの父祖たちが行った正しい道です。迂回路に行くことは下っていくことです。太古の径、すなわち築かれている道に行くことは、上っていくことです。

この時、あなたは神の永遠のエコノミーが永遠の神と永遠の神の行政と関係していることを思い出してください。あなたの周りの状況は変わりますが、神の永遠のエコノミーは変わりません。あなたが福音と牧養の道を取らなくても、神のエコノミーは不変です。彼は永遠の過去に誰とも相談せず、神格の三一の間でご自身の永遠のエコノミーを定められました。

エペソ 3:9 **それはまた、万物を創造された神の中に、各時代にわたって隠されてきた奥義のエコノミーが何であるかを、すべての人を照らして明らかにするためであり、**
10 **今、天上にある支配たちや権威たちに、神の多種多様な知恵を、召会を通して知らせるためであり、**

今の召会時代は恵みの時代です。多くの場合、神は人に強制しません。神は、人が自ら進んで神の憐れみと恵みを取り、献身を更新し、神の永遠のエコノミーの道を歩むことを待ち望んでおられます。福音と牧養のこの道は、下り坂ではなく、上り坂ですので、一見して大変な道です。しかし、あなたには神の十分な恵みがありますので、恵みを享受しながら、喜びを持って勝利者の道を歩むことができます。決して弱くなって、迂回路を行ってはいけません。

召会の各地区の福音と牧養のスケジュール(召会生活の福音の枠組み)に従って、毎週、聖徒たちと取り組んで神の定められた道を実行してください。私たちは神の定めに従って、時代の終わりに王国の福音を人の住む全地に伝えましょう。極東の地の果てである日本においても、福音を全住民に伝える必要があります。勝利者とは失敗しない人ではなく、失敗に気付くと直ぐに、御子イエスの血を適用し、命の交わりに戻り、兄弟姉妹と共に主の言葉を守り、主の御名を否まない人たちです。

啓示録 3:8 **あなたは少しばかりの力を持っていて、私の言葉を守り、私の名を否まなかったからである。**

祈り:「主イエスよ、エレミヤのように自分自身から神へと向きを変え、神の永遠の存在と不変の行政を思います。日本で福音を伝えることは容易ではないからといって、弱くなって迂回路をとることがありませんように。朝ごとに新鮮なあなたの憐れみにあずかり、神の定められた福音と牧養の道を歩みます。勝利者とは失敗しない人ではなく、失敗に気づいたらすぐに御子の血を適用し、主の言葉を守り、主の御名を否まない人たちです」。

CP3: 主に望みを置き、彼を待ち望み、彼の御名を呼び求めて、神の分与の下で生活する

OL1:『エホバは私の分け前です』と私の魂は言う。それゆえ、私は彼を待ち望む(哀3:24)。**OL2:**「エホバは彼を待ち望む者と、彼を求める魂に対してすばらしく善い」(25)。

エレミヤの時代に、イスラエルの民の状態は良くありませんでした。神はそれほど愛し、親切で、あわれみ深く、信実であるようには見えませんでした。…私たちはエレミヤのように、神が依然として私たちの分け前であること、私たちが彼を望み、彼を待ち望み、彼の御名を呼び求めるべきであることを認識する必要があります。しかしながら、たとえ私たちはこれらの事を行なっても、状況が直ちに変わることを期待すべきではありません。

エレミヤの事例で、主を待ち望むことは実に長かったです。復興の時代についての彼の予言の成就是、まだ来ていません。その反対に、今日のイスラエルの状況は、これらの予言を確証するようには見えません。これは、私たちが主を待ち望む学課を学ぶ必要があることを示します。今日は究極的完成の時代ではありません。私たちは主を待ち望まなければなりません。

主を待ち望むことは極めて重要です。神は私たちの分け前です。彼は慈愛とあわれみに満ちておられます。彼は絶対的に信実です。今や私たちは彼を望み、彼を待ち望み、彼を呼び求める必要があります。…ある聖書教師は、神は私たちを救うことにおいてはすぐに行動しても、他の多くの事においてはすぐに行動されないことを指摘しました。例えば、私たちは、主が祈りに答えてくださることを知っています。私たちが特定の事柄について彼に祈っても、彼は数か月待って、私たちの祈りに答えられるかもしれません。これは私たちを助けて、神は真で、生きており、あわれみ深く、信実であっても、しばしば私たちが期待するほどすぐには事を行なわれないことを認識させます。神が遅らせている理由は、彼が私たちを試みることを意図しておられるということです。彼は私たちを試みて、私たちが自分の望みを失い、完全に終わらされているという感覚を持つ程度にまでなるでしょう。私たちが状況には望みが無いと感じるとき、それはしばしば、神が入って来られる時です。これが神の分与の下での私たちの経験です。

哀歌 3 章でエレミヤは言いました、「エホバよ、私は…あなたの御名を呼び求めました」(55 節)。主の回復の中で私たちは、主イエスの御名を呼び求めることを学びました。しかしながら、新約の多くの信者たちは、主の御名を呼び求めることについて知りませんし、それを実行しません。

私たちがこの編で強調した**三つの事柄**を評価します。**1** 私たちが主を望むこと、**2** 彼を待ち望むこと、**3** 彼の御名を呼び求めることです。私たちはこれらの事を実行するなら、実行上の方法で神の分与の下にいます。私たちの周りの状況が望みのないように見えるとき、私たちの神は決して打ち破られ得ないことを、私たちは認識する必要があります。…私たちは、聖書が言っていることをすべて信じるべきです。それに加えて、私たちは、神が彼の民の分け前であることを認識する必要があり、また私たちの望みと信頼を彼に置く必要があります。

適用: 新人及び青少年・大学生編

新人と若者の皆さんは、『エホバは私の分け前』を享受するために、以下の三つのことを実行してください。

1 **主に望みを置く:** あなたは望ましくない環境で容易に落胆してしまいます。エレミヤの時代、状況は極めて悪く、一見すると全く望みはありませんでした。エレミヤは神の憐れみと慈愛を思い出し、神に望みを置きました。**コロサイ1:27** 神は彼らに、異邦人の間にあるこの奥義の栄光の豊富がどんなものであるかを、知らせたいと願われました。それはあなたがたの内にいますキリストであり、栄光の望みです。**Ⅱコリント4:1** こういうわけで、私たちはあわれみを得て、この務めを受けたのですから、落胆しません。**エペソ2:12** その当時、あなたがたはキリストから離れ、イスラエルの国籍から除外され、約束の契約についてはよそ者であり、この世の中で希望もなく、神もない者でした。

あなたに内住するキリストは栄光の望みです。あなたは望みであるキリストを持っているのですから、主の中で希望を持つことができます。

例えば、あなたは学校の成績が上がらないので、落胆しています。そして、自分の能力の無さに失望します。しかし思い出してください、「キリストがなければ望みはありませんが、内住のキリストを持っているので、真の望みがあります」。主と兄弟姉妹と交わって、祈って下さい。内側の主を見上げて、内側の主と交われば交わるほど、望みである主に触れ、徐々に望みで満たされます。主の中で望みをもって、勉強に取り組んでください。

2 **主を待ち望む:** 主の中で成績を上げることは、あなたの内側の命の成長と関係があります。従って、それは直ぐに起こるのではなく、少しずつ、徐々に起こりますので、忍耐をもって待ち望む必要があります。主を待ち望むと、外なる人の不信仰の感覚は小さくなり、内なる人の信仰の感覚が大きくなります。あなたは主を待ち望んでいる時、主を捜し求め、主を呼ぶべきです。

エレミヤ29:13 あなたがたが心を尽くして私を捜し求めるなら、私を尋ね見いだす。**33:3** 私を呼べ。そうすれば、私はあなたに答え、あなたが知らない大いなる隠された事をあなたに告げよう。

3 **主の御名を呼び求める:** 主に望みを置き、主を待ち望む人は、必ず主の御名を呼び求めます。

ローマ10:9 あなたが自分の口で、イエスは主であると告白し、自分の心で、神は彼を死人の中から復活させたと信じるなら、あなたは救われます。**10** なぜなら、人は心で信じて義とされ、口で告白して救われるからです。**11** 聖書は、「すべて彼に信頼する者は、辱められることがない」と言っています。**12** ユダヤ人とギリシャ人の区別はありません。同じ主が、すべての者の主であって、彼を呼び求めるすべての者に、彼は豊かです。**13** なぜなら、「主の御名を呼び求める者はすべて救われる」からです。

祈り:「主イエスよ、主は私たちの分け前です。私たちの分として神を享受するために、私は**1**あなたに望みを置き、**2**あなたを待ち望み、**3**あなたの御名を呼び求める必要があります。神に望みを置くなら、たとえ私の今の状況が望みのないようであっても、失望する必要はありません。内住するキリストは栄光の望みです。主と兄弟姉妹と交わって、祈り、忍耐を持って待ち望み、勉強します。主イエスよ、主の中で私の学業を祝福してください」。